

令和7年8月6日

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

筑波大学		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
筑波大学附属坂戸高等学校	国立大学法人筑波大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
筑波大学附属 坂戸高等学校	https://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp/research-bulletin/ ※学校ウェブサイトのトップページ>教育研究>【教育課程特例校】開発科目:グローバルライフ (PDF)

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
筑波大学附属 坂戸高等学校	https://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp/research-bulletin/ ※学校ウェブサイトのトップページ>教育研究>【教育課程特例校】開発科目:グローバルライフ (PDF)	https://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp/ ※学校ウェブサイトのトップページ>学校評価 (2024) (PDF)

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・ 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

なし

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・ 実施している
- ・ 実施していない

<特記事項>

毎年実施している教育研究大会では、学校・教育関係者および保護者に対して研究授業を公開し、意見をいただく機会をもっている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校は、平成26年度よりSGH（スーパーグローバルハイスクール）に、また令和元年度からはWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の拠点校に指定され、令和6年度からは再びWWL拠点校として再指定を受けている。

これらの取り組みの一環として、本校では国際化を身近な課題として意識させることを目的に、「グローバルライフ」という科目を開発・実施してきた。「グローバルライフ」は、高等学校の必修科目である「家庭基礎」の代替科目として、SGH指定のもと特別の教育課程として開発された。「家庭基礎」は、人の生活やライフスタイル、環境、共生社会などの身近な課題を取り上げ、それらを主体的に解決し、生活の質を向上させる能力と実践的な態度を育成することを目標としている。

こうした生活上や地域社会の課題を深く考察していく中で、その本質に迫るほど、海外とのつながりを無視できないことが明らかになる。つまり、「家庭基礎」で扱う内容は、授業の展開次第で、身近な課題から国際的な課題へと視野を広げることが可能である。

そこで本校では、「家庭基礎」の内容を基盤としつつ、国際化を身近な課題として捉えさせ、地球市民としての意識の涵養と発展的思考力の育成を目指す科目として「グローバルライフ」を開発した。この「グローバルライフ」の学びは、申請当初の狙い通り、生徒が自らの生活と海外とのつながりを意識し、多様な課題を発見するきっかけとなっている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本科目の目標を次のように設定している。

「人の一生、生活に関する学びを地球規模で考え、地球に暮らす一人としての意識を持たせる。家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得していく中で、日常生活の中から世界とのつながりを意識し、自分の生活、家庭、地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる」

さらに、生徒に身につけてほしい力を次のように設定した。

「日本と世界とのつながりを理解し、これからの自分の生活を創造するための3つの力を身につける」

- 1) 日常生活の先にある世界を想像できる力
- 2) 日常生活から世界の課題を発見できる力

3) 自分の考えを他者に伝え相互に共有できる力

これらの3つの力を身につけるため、「自ら調べ、課題を発見すること」「他者との意見共有」などの時間も重視している。

グローバルライフは高等学校必修科目「家庭基礎」を代替している科目である。「家庭基礎」における学習内容は多岐にわたる。そのため、家庭基礎で身につけさせたい概念などをふまえつつ、生徒が実感しやすく発展的に考えることのできる分野を絞り、開発していくこととした。最終的に、衣分野、食分野、社会との共生分野、生活とグローバル課題を考える分野の4分野で内容を構成した。本科目では、いかに様々な課題を“自分のこと”としてとらえられるかを大切にし、身近なことから考え続けていくことを願い、題材を選定している。

4. 課題の改善のための取組の方向性

以前からの課題として、教育効果を客観的に評価する方法が確立されていない点が挙げられる。現在、科目開発を中心的に進めている担当者が、教育の質的調査・研究に関する学位論文を取得しており、その知見を活かして、今後は生徒アンケートやインタビューなどを活用した客観的な授業効果の測定方法の開発を進めていきたい。